

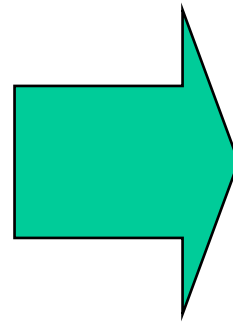
自然エネルギー事業の育成

マーケット創出
と
地域技術



マスキー法の教訓

- ガソリン車については日本が最も厳しい環境規制
- デイゼル車についてはヨーロッパが最も厳しい環境規制
- アメリカでは環境規制が骨抜きに



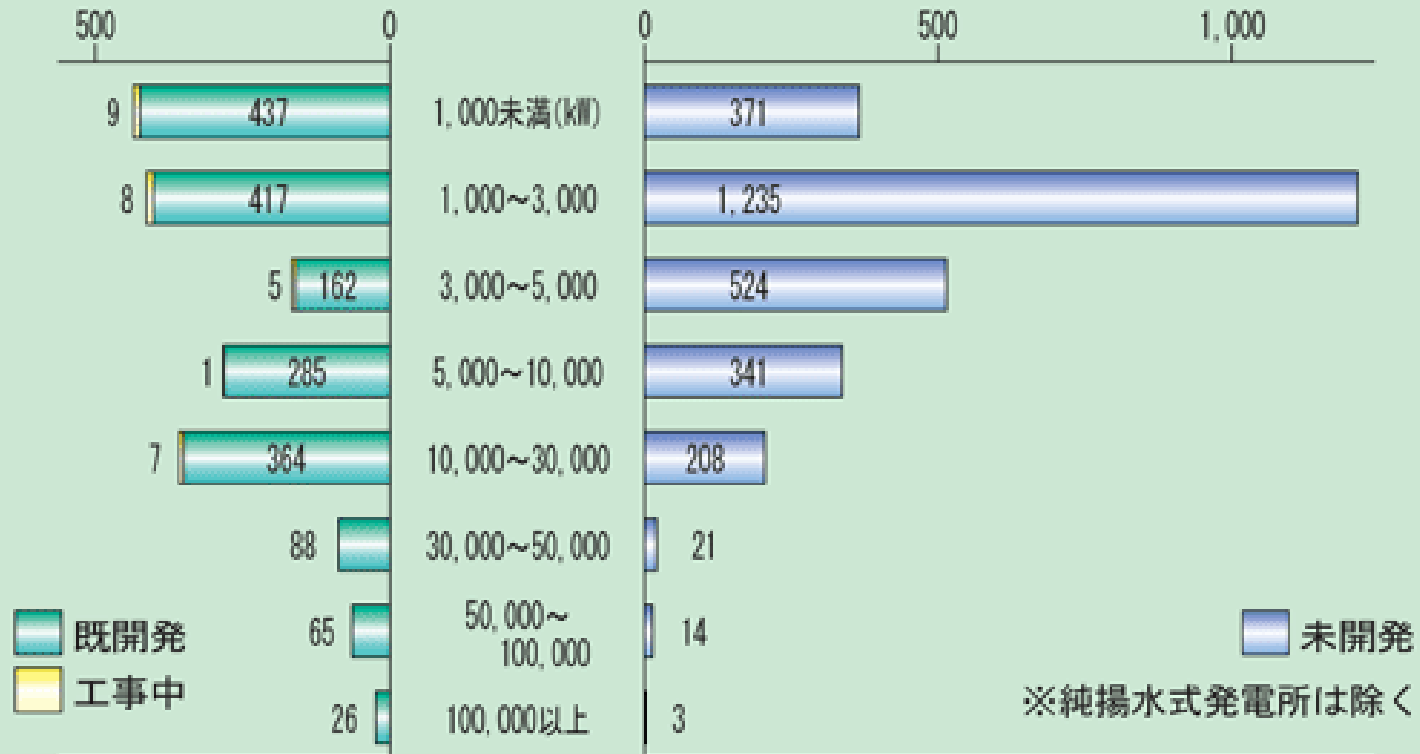
今の世界市場のシェアは？

規制が投資を促し、投資が競争力をもたらす

データの重要性(1/2)

水力エネルギーの出力別分布(地点数)

出典:資源エネルギー庁調べ(2004.3現在)



データの重要性(2/2)



ワンストップの重要性

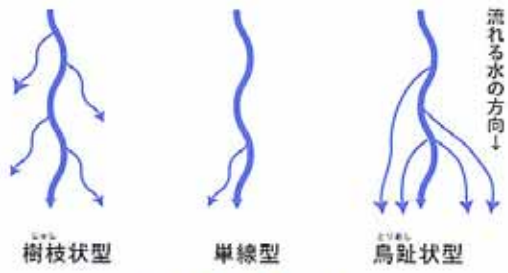
- 関係者の同意
- 流量計測(最低一年間)
- 施工図面
- 水門鉄管基準
- 電気主任技術者
- ダム水路主任技術者選任
- 電力会社との契約
-

マーケットを創り出す

- 適切な規制
- マーケットを示すデータ
- 顧客を生み出すための手続き簡素化
- (適切な助成制度)
-

“Pre-commercial” (プレーベン=メゴール)

樹の枝や、鳥の足… これって何の形？



分水のパターン

安曇野の大地は扇状地でんじょうちとって、鳥川とりがわによって北アルプスから運ばれた石や砂が積み重なってできているため降った雨はすぐに地下へしみ込んでしまいます。このため、生活や農業に使用する水を確保することはたいへんむずかしい問題でした。

そんな大地を潤したのは、鳥川の流れから張りめぐらされた水路(沢)でした。なぜ、図のように複雑な模様ができたのでしょうか？それは、限られた水を、できるだけ多くの地域で分け合うために、一本の沢をさまざまなパターンでさらに枝分かれさせていたからです。

左の図にあるようなパターンが、どこにあるか下の図の中からさがしてみましょう。



水の回廊

烏川のワルツは1万年が1拍子

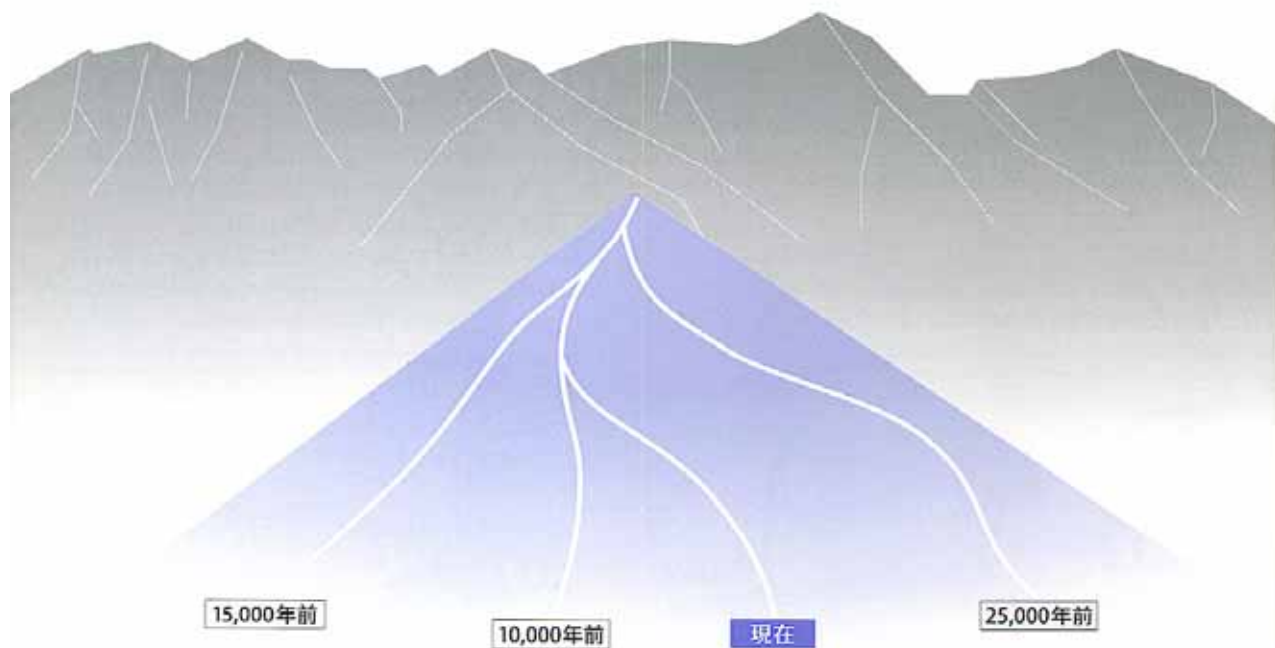
「美しき青きドナウ」

ドナウ川の流れを、ゆったりとしたワルツで表現した名曲です。でも、烏川のワルツは、もっともっとゆっくりです。

烏川は、その上流を起点として、流れが左右に振れ動いてきました。その様子は、まるでメトロノームの振り子のよう。



テンポは一定ではありませんが、1万年で1拍子のこともあります。図のように、烏川は山からたくさんの石や砂を運びながら、長い時間をかけて、不規則に流れを変えていきました。高山から平地へ斜面が変化することで、川の流れのスピードが急に弱まり、その結果、石や砂が扇のような形に積もっていきました。この“扇形”の地形が安曇野の「扇状地」なのです。川が運ぶものは、水だけではありません。

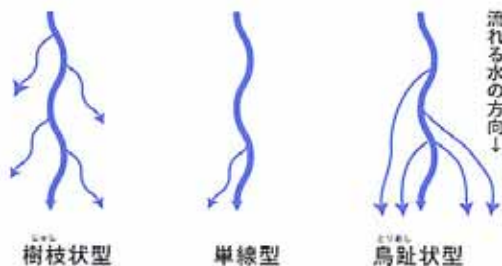


川の流れが振れ動く理由

- その1: 川が氾濫して流れが変わる。
- その2: ひとつの川幅の中に、石や砂が削り取られるところと積み重なるところがある。
長年、一方だけが削られ続ければ、削られた方向に流れを変えていく。

水の回廊

樹の枝や、鳥の足… これって何の形？



樹枝状型

単線型

鳥趾状型

分水のパターン

流れる水
の方向↓

安曇野の大地は扇状地でんじょうちとって、鳥川とりがわによって北アルプスから運ばれた石や砂が積み重なってできているため降った雨はすぐに地下へしみ込んでしまいます。このため、生活や農業に使用する水を確保することはたいへんむずかしい問題でした。

そんな大地を潤したのは、鳥川の流れから張りめぐらされた水路(沢)でした。なぜ、図のように複雑な模様ができたのでしょうか？それは、限られた水を、できるだけ多くの地域で分け合うために、一本の沢をさまざまなパターンでさらに枝分かれさせていたからです。

左の図にあるようなパターンが、どこにあるか下の図の中からさがしてみましょう。



水の回廊

地域技術





地域技術